

テーマ	3級の基本仕訳（期中仕訳・決算整理仕訳）
-----	----------------------

1. 次の期中取引について仕訳を示しなさい。

- (1) 売掛金の回収として、現金¥1,000を受取った。
- (2) 商品¥5,000を売上げ、代金として他人振出小切手を受け取った。
- (3) 相手払いの発送運賃¥1,200を立替払いしておいたが、本日郵便為替証書が送付されてきた。
- (4) 当社が所有する株式につき、配当金領収書¥3,000を受取った。
- (5) 支払期限が到来した利札を換金し、社債の利息¥2,000を受取った。
- (6) 帳簿在高は¥800であり、実際在高は¥600であった。
- (7) 上記(6)の不一致の原因は、支払利息の記入漏れであった。
- (8) 帳簿在高は¥800であり、実際在高は¥900であった。
- (9) 上記(8)の不一致の原因は、受取家賃の記入漏れであった。
- (10) 手数料を支払うために、小切手¥1,000を振り出した。
- (11) 手数料として小切手¥2,000を受け取り、ただちに当座預金とした。
- (12) 売掛金¥50,000を以前自店が振り出した小切手で回収した。
- (13) 手数料¥1,000を支払うために小切手を振り出した。なお、預金残高は¥800である。(二勘定制)
- (14) 現金¥500をただちに上記(13)の口座に入金した。(二勘定制)
- (15) 手数料¥1,000を支払うために小切手を振り出した。なお、預金残高は¥800である。(一勘定制)
- (16) 現金¥500をただちに上記(15)の口座に入金した。(一勘定制)
- (17) 会計係は用度係に小口現金として小切手¥5,000を渡した。
- (18) 用度係より水道光熱費¥3,000、交通費¥1,500、消耗品費¥200を支払った旨の報告を受けた。
- (19) 上記(17)(18)の小口現金に小切手を振り出して補給した。
- (20) 商品¥1,000を仕入れ、代金は現金で支払った。
- (21) 商品¥1,000を売り上げ、代金は現金で受け取った。
- (22) 商品¥1,000を現金で仕入れ、引取運賃¥500ともに現金で支払った。
- (23) 品違いのため、商品¥300分を返品した(以前、現金で仕入れた)。
- (24) 不良品があったので、¥300の値引を受けた(以前、現金で仕入れた)。
- (25) 商品¥1,000を現金で売上げ、発送費¥500は小切手で支払った。
- (26) 品違いのため、商品¥300分が返品された(以前、現金で売上げた)。
- (27) 不良品があったために、¥300の値引をした(以前、現金で売上げた)。
- (28) 商品¥1,000を売上げ、代金は掛とした。
- (29) 上記(28)、売掛金¥1,000を現金で回収した。
- (30) 商品¥1,000を掛で売上げ、発送費¥500は現金で支払った。
- (31) 品違いのため、商品¥300分が返品された(以前、掛で売上げた)。
- (32) 不良品があったために、¥300の値引を受けた(以前、掛で売上げた)。
- (33) 商品¥1,000を仕入れ、代金は掛とした。
- (34) 上記(33)、買掛金¥10,000を現金で支払った。
- (35) 商品¥1,000を掛で仕入れ、引取運賃¥500は現金で支払った。
- (36) 品違いのため、商品¥300分を返品した(以前、掛で仕入れた)。
- (37) 不良品があったために、¥300の値引を受けた(以前、掛で仕入れた)。
- (38) 青山商店から商品¥300を掛で仕入れた。(人名勘定)
- (39) 渋谷商店に商品¥10,000を掛で売上げた。(人名勘定)

テーマ	3級の基本仕訳（期中仕訳・決算整理仕訳）
-----	----------------------

- (40) 商品¥1,000 を仕入れるために、内金¥300 を現金で支払った。
- (41) 上記(40)の商品が手もとに届き、残金を現金で支払った。
- (42) 商品¥1,000 の内金として¥300 を現金で受け取った。
- (43) 上記(42)の商品を販売し、残金を現金で受け取った。
- (44) 本日、商品券¥10,000 を現金で販売した。
- (45) 商品¥10,000 を売り上げ代金は商品券で受け取った。
- (46) 商品¥10,000 を売上げ、代金は他店発行の商品券で受け取った。
- (47) 備品¥1,000 を売却し、代金は月末に受け取ることにした。
- (48) 上記(47)の未収金¥1,000 を現金で回収した。
- (49) 備品¥1,000 を購入し、代金は月末に支払うことにした。
- (50) 上記(49)の未払金¥1,000 を現金で支払った。
- (51) 現金¥1,000 を貸し付けた。
- (52) 貸付金¥1,000 の返済を現金で受け、利息¥100 も現金で受け取った。
- (53) 現金¥1,000 を借り入れた。
- (54) 借入金¥1,000 を現金で返済し、利息¥100 も現金で支払った。
- (55) 従業員より給与の前借り¥1,000 の要求があり、現金で立て替えた。
- (56) 本日給与¥10,000 の支払いにあたり、立替金を差引き、残金を現金で支払った。
- (57) 従業員より旅行積立金¥1,000 を現金で預かった。
- (58) 旅行者に対して、上記(57)の預り金を現金で納付した。
- (59) 従業員が出張するので、現金¥1,000 を交通費として概算額で渡した。
- (60) 従業員が出張から帰り、残金¥300 を現金で受け取った。
- (61) 従業員が出張先から、現金¥1,000 を送金してきた（内容は不明である）。
- (62) 従業員が出張から帰り、上記(61)の送金が売掛金の回収であるとの報告を受けた。
- (63) 商品¥1,000 を仕入れ、代金は手形を振り出して支払った。
- (64) 上記(63)の手形が満期になったので、小切手を振り出して決済した。
- (65) 商品¥1,000 を販売し、代金は手形で受け取った。
- (66) 上記(65)の手形代金が小切手で決済された。
- (67) 買掛金¥1,000 を支払うために、かねて売掛金のある得意先引受の為替手形を振り出した。
- (68) 仕入代金¥1,000 を支払うために、かねて売掛金のある得意先引受の為替手形を振り出した。
- (69) 仕入先の買掛金¥1,000 を決済するために、為替手形を引受けた。
- (70) 商品¥10,000 の仕入を行い、代金の支払として為替手形の引受を求められた。
- (71) 得意先の売掛金¥1,000 の代金として為替手形を受け取った。
- (72) 売上¥1,000 の代金として為替手形を受け取った。
- (73) 商品の仕入に際して、かねて保有していた手形¥1,000 を裏書した。
- (74) 商品を販売して、代金として裏書された手形¥1,000 を受け取った。
- (75) かねて保有していた手形¥1,000 を銀行において割引いた。なお、割引料は手形額面の10%を支払い、残金を当座預金とした。
- (76) 現金¥1,000 を貸付けて同店振出しの手形で受け取った。
- (77) 現金¥1,000 を借入れるために手形を振り出し、利息10%が差し引かれ、残金は現金で受け取った。
- (78) 土地¥500,000 を購入し、仲介手数料など¥5,000 とともに現金で支払った。

テーマ	3級の基本仕訳（期中仕訳・決算整理仕訳）
-----	----------------------

- (79) 保有している土地の整地のために、¥500,000 を現金で支出した。
- (80) 保有している建物の修理のために、¥50,000 を現金で支出した。
- (81) 1株¥50,000の株式を10株現金で購入した。(¥50,000×10株=500,000)
- (82) 額面¥500,000の国債を@¥98現金で購入した。(¥500,000÷100×¥98=490,000)
- (83) 1株¥50,000の株式10株を1株¥60,000で売却し代金は現金で受け取った。
- (84) 1株¥60,000の株式10株を1株¥50,000で売却し代金は現金で受け取った。
- (85) 現金¥300,000、土地¥600,000、備品¥100,000、借入金¥400,000を元入して開業した。
- (86) 店主が現金¥5,000を引き出し、個人の生命保険を支払った。
- (87) 店舗の固定資産税¥2,000を現金で支払った。
- (88) 売掛金¥10,000が回収不能となった。なお、貸倒引当金の設定はない。
- (89) 売掛金¥10,000が回収不能となった。なお、貸倒引当金が¥15,000設定されてある。
- (90) 備品（取得価額¥100,000、残存価額取得価額の10%、耐用年数5年、取得後2年経過）を現金¥70,000で売却した。（直接法）
- (91) 備品（取得価額¥100,000、残存価額取得価額の10%、耐用年数5年、取得後2年経過）を現金¥70,000で売却した。（間接法）
- (92) 備品（取得価額¥100,000、残存価額取得価額の10%、耐用年数5年、取得後2年経過）を現金¥60,000で売却した。（直接法）
- (93) 備品（取得価額¥100,000、残存価額取得価額の10%、耐用年数5年、取得後2年経過）を現金¥60,000で売却した。（間接法）
- (94) 消耗品を現金¥500で購入した。（購入時資産処理）
- (95) 消耗品を現金¥500で購入した。（購入時費用処理）

2. 次の決算整理仕訳を示しなさい。

- (1) 本日、決算を迎えたが、現金過不足¥300（借方残）については依然として原因が判明しないままであった。
- (2) 本日、決算を迎えたが、現金過不足¥300（貸方残）については依然として原因が判明しないままであった。
- (3) 決算日となり商品に関して決算整理仕訳を行う。なお、当期商品仕入高は¥1,000、期首商品棚卸高は¥300、期末商品棚卸高は¥200であった。売上原価は仕入勘定で算定する。
- (4) 決算にあたり、売掛金¥10,000に対して3%の貸倒引当金を設定する。なお、貸倒引当金の残高は¥100である。
- (5) 株式10株(取得価額@¥50,000)が1株40,000に値下がりしているので、評価損を計上した。
- (6) 株式10株(取得価額@¥50,000)が1株60,000に値上がりしているので、評価益を計上した。
- (7) 取得価額¥500,000、残存価額は取得価額の10%、耐用年数10年の備品を減価償却した。（直接法）
- (8) 取得価額¥500,000、残存価額は取得価額の10%、耐用年数10年の備品を減価償却した。（間接法）
- (9) 上記(94)の消耗品について、決算日における未使用高は ¥100であった。（購入時資産処理）
- (10) 上記(95)の消耗品について、決算日における未使用高は ¥100であった。（購入時費用処理）
- (11) 決算日（3月31日）にあたり、12月1日に1年分¥1,200支払った保険料のうち、未経過分を繰り延べる。
- (12) 6月1日に建物の賃借契約（期間1年、月額¥100）を結び、家賃は契約終了時に全額支払うことにしていたが、決算日（3月31日）にあたり、経過分を見越し計上する。
- (13) 決算日（3月31日）にあたり、12月1日に1年分¥1,200受取った手数料のうち、未経過分を繰り延べる。
- (14) 6月1日に建物の賃借契約（期間1年、月額¥100）を結び、家賃は契約終了時に全額受け取ることにしていたが、決算日（3月31日）にあたり、経過分を見越し計上する。